

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 愛 A棟
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市下高隈町5039番地8
記入者名 (管理者)	管理者 石川慶子
記入日	平成 22 年 12 月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営推進会議を確実に進めていく中で、地域の代表や家族、市町村職員と交流を深め、お互いの持ち合わせた情報をもとに地域住民とのふれ合いの機会を増やしている</p> <p>一年に一度の家族会に地域の高齢者を招き一緒に昼食をとりながら歓談する。新入職員の採用時にはこのことを話し、掲示して振り返る。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>馴染みの仲間、地域の仲間と仲良く、輪になって和やかに暮らすこと。運営理念については、日々2回唱和している。通所者及び入居者も職員も人間関係を密にして、日常生活がよりよい楽しいものであるよう努力している。地域より通所してこられるデイ利用者とも馴染みの関係となり、和やかにすごせている。散歩では仲良しだった友達と世間話する人、ふれあい農園で地域の人と一緒に作業することもある。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居者は感情をストレートに表現されるが、素直に聞き入れ各人の情緒的なものをよく把握しつつ普通に対応している。家族や地域の来園については、ホームで暮らしぶりを少しでも多く理解して頂くよう出入りされる方に比較的自由に暮らしぶりをみて頂いている。面会時には一緒に理念を唱えてもらったり、展示物や管理者等の話により解って頂いていると思う。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>経営者が地元であり(ホーム隣に自宅)、ホームも隣近所の人と気軽に声を掛け合える環境にある。近隣に住む入居者の家族が畑を耕して下さったり、農業振興地域の為、野菜類加工食品等が度々届く。ホームで収穫した野菜を訪れた方々に持たせることもある。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区境界線にあり両地区の町内会に加入しており、行事等にも積極的に参加し地域住民との交流に努めている。地域の運動会、文化祭等に(年2~3回)入居者が参加している。地域小学校から5、6年生が来園し 作文読みや肩もみ等のプレゼントがある。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	他の職員も学ぶ機会があれば学び、今後 必要があれば活用していきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	時折スタッフの乱暴な言動や敬愛の念を忘れたような言葉が聞かれることがあるので、今後はもっと職員と話し合いの機会を多くしていく。(お茶や食事の時間なども利用する)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用約款、重要事項説明書、パンフレット、個人情報に関する同意書、入所利用同意書、委任状、自己評価表、外部評価表、利用契約書、医療体制に関する規定、入居申込書、入居に必要な物品等の文書によって説明、納得を図っている。	今後も同様にしていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満等はできる限り早く解決して納得がいくようにしている。職員サイド、管理者、施設長サイドから話し合いや実践を伴い解決を図っている。	すぐにはできることはその場で、時間を要することはその理由を話して今後も「すぐやる」ことを目標にしていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	平時健康状態については受診時の状況、今後の見直し次回受診の期日などを連絡、報告(緊急に於いてはその都度)している。・金銭管理については、預かり金の現状報告をして家族の確認サインをしてもらっている。(頻度については各個によって異なる)	今後も続けていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や提言があれば、受け止めて直ちに運営に反映できるようにしている。不満や苦情が直接聞こえてこないのも、ホームから家族へアンケートを実施した。その結果、「入居して良かった」との多数の回答を得た。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に聞く機会があると思っている。(お茶、食事の時他)すぐに反映できること、又社長や施設長に相談することで時間を要する場合には、そのことを職員に告げて、できる限り話を聞いたら実践している。	職員の意見は貴重だと考えているので、今後もっと言葉に出ることや出ないことも察して、より良い関係を保って仕事をしていきたいと思っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況の変化に対しては、管理者も職員も(経営者も含む)すぐに要望に対応できるように勤務調整をしている。勤務調整は職員、管理者、施設長間でいつでも連絡調整できる状況にある。	今後も同様にしていく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は退職者と新規雇用者がある場合のみで、殆ど馴染みの職員が介護できる状況である。定着率は良い。	運営者も管理者も考え方としては、同じ職員に長期に亘って勤務してもらいたいと考えており、今後も職員一人一人を大切に思う処遇をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り内外の研修を受ける機会を逃さず、介護の経験年数や本人の意欲に応じた資格取得ができるように進めている。		今後も介護経験の実績のある職員には、必要な資格の取得ができるように支援をしていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム連絡協議会に於いての交流会や勉強会の機会が多く、必ず参加している。また、運営者が意欲的に取り組み役員も引き受けている。		イベント等の場合には係員として職員を積極的に参加させ、様々な面から他のホームや施設の職員との交流を図り、よい情報を反映させていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事やお茶の時間にストレスについては会話出来る機会が多いが、職場でのストレスは個人的な趣味や、少人数の食事会等によって軽減されている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員各自の努力や勤務状況の対価としては8月と12月に賞与として反映されている。勤務年数や資格取得に対しても金一封が贈られる。また、運営者がしっかりとした考え方で職員に叱咤激励するので職員は頑張る気持が持てると思う。常に向上心をもって働いていきたい気持ちは管理者、職員共に同じと思う。日々反省をして、気づきをバネに介護の仕事に努力していく。今年度は介護職員処遇改善交付金支給の楽しみも増えている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居後は特に本人の戸惑いがないように、要求や希望をその都度よく聞いて、要望に沿う介護をする。徐々に要望通りでは本人の健康上よくないことや、対人関係についてたびたび話し合いをして馴染みの顔となり、馴染みと仲間となって信頼関係を築くようにしている。		今後も本人が困っていること、不安なこと等はできるだけ早く解決できるように努力して幸せな時間を長く保持できるように介護をしていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期には家族の可能である限りホームに来園してもらい、話を聞いたり実際に現状を見てもらいながら、困っていることや問題点があれば、きちんと受け止めて対応できる体制をつくっている。お互いによく話し合うことは重要なことと思っている。来園の度に家族からみた入居者の状況を聞き、生活ぶりや心身の状況等を報告する		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		<p>家族と本人のこれまでの暮らしぶりの中では、介護疲れや経済面、お互いの性格的なもの等から折り合いが悪くなってしまい、元に戻れないような場合もあり、あまり深く立入ることも困難な事例がある。せめてホームではお互いの関係をよりよい方向に見守っていきたい。</p>
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	○	<p>認知症は「何もわからない」と思っている人が多いが、「わかる部分も多い」ことを理解してもらう為に、来園される方にはその都度話をしている。もっともっと理解してもらえるように努力する。</p>
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方の家族にも、他の施設に移られた利用者の方々にも時折りは近況を聞いたり訪ねたりしている。年賀状などのやりとりもある。		今後も続けると思う。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	早起きの人、朝寝をしたい人、昼寝をする人、しない人、外出好きの人、出たくない人、嗜好品にしてもさまざま。可能な限り本人の意向を大切にしていると思う。その人に応じた外出をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴はその人の職業にも関係しているし性格もあってさまざまで、地域的にも農家出身が多いので、季節や時期を肌で感じておられるように感じる。農作物の管理や取入れなど手伝ってもらったり、おしゃれに関心のある方は理容所でヘアカットすることを嫌うので美容院へ通うなど個々に対応している。入居者個人の要望に応えながら時間をつくっては一緒に行動しながら把握をしていく。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過ごし方はホームの流れは大まかなので、各人によってホール、居室、散歩、室内歩行練習、昼寝などや家事の手伝い、テレビ等、スタッフの声かけや促しの助言によってゆるやかな時間を過ごされている。心身の状況は常に把握しながらその人に合った一日の過ごし方を見守っていく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、介護スタッフ、計画担当者他関係者とはその都度話し合って介護計画を立てている。	○	高齢者は何か病気がでた場合、その病気が治癒しても、一段レベルの低下した状態で維持して徐々に体力や免疫力の低下につながると思うので、日頃から疾病や怪我などから護ること、発症したら早期回復に向けて努力するということを心がけていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特に何かの状況が生じて入院した入居者が退院した時等には医師の情報提供書や家族、スタッフなど関係者と協議して見直しの計画作成をしている。		今後もそのようにしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践等は一日の介護日誌に記録し、記録と口頭により日勤者～夜勤者、施設長、管理者に報告されているので、入居者の情報はほぼ把握できている。個々の細かい記録については計画作成者や管理者によっても記録がある。	○	情報の洩れがないように今後も各職員と連絡を密に取り合い入居者の介護に役立てていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望には可能な限り柔軟に支援をしていると思う。「これは決まりですから」「契約ですから」等と画一的ではなく何事もよく話し合っ一番良い方法で、その都度要望をかなえていきたいと思っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には相談苦情の第三者委員をお願い(3人)したり、地区の駐在所には月1回のホーム便りを届けたりしてグループホームへの理解を深めてもらいたいと思っている。又地区消防とは年一回避難訓練を通じてホーム内と入居者の状況を理解してもらい協力を得ている。		今後も続けていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者とは日常的に会って話をしたり、電話で話をするなど情報交換をしている。	○	本人の意向や必要性があれば本人や家族が一番望まれるサービス利用に向けて努力していこうと思っている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在では地域包括支援センターとの関係は2カ月に1回の運営推進委員会に参加してもらっている。ベッドの空き情報等も連絡をとり合っている。包括支援センターとの交流はでき、アドバイスももらっている。また、年4回の連絡協議会にも参加、勉強会を開催している。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては本人や家族の意向を重要視しつつ受診をすすめてきている。入居者はそれぞれにかかりつけ医があり、その主治医とは直接又は間接的に連携をとれる体制にある。1～3ヶ所のかかりつけ医をもつ入居者のためにその主治医や関係者とは常に直接、又は間接的に連携を密にして信頼関係を保って適切な医療を受けられる支援をしていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		今後とも続けていく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		今後と同様にしていく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		今後全員で方針の共有に努力していく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		可能な限りホームで暮らしてもらう。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	ホームに入居中のみに限らず、その後住み替え状況についても、折にふれ情報を交換できる環境でありたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけ等、スタッフの言動については、必ずしもそのような取り扱いをしているとは言えない。	○ 日常的に介護スタッフの言葉や態度には耳を傾けつつ、注意を促したりお互いに注意しあっている。記録についても、気のついた部分では修正をしたりしながら理想に近づけたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者の思いや希望の表出がわかる限り意に添うようにしているものの、中々本人が納得できないような困難に出会うこともしばしばある。	○ 認知症介護の知識や技術をもっともっと学習して行きたいと思うので、ホーム内外の研修参加や他の事業所との交流を深める為に努力をしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしのリズムは無理強いしないで、本人の意向に沿った介護ができていると思う。 業務は後回しにしても、目の前にある介護に徹底できるように努力している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お化粧品したい人、肌の手入れをしたい人等化粧品の購入や美容院に行きたい人、理容室で良い人、ホームで刈ってもらいたい人、染めたい人さまざまであり本人の希望に沿っている。	今後と同様にしていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなもの、特に食べられないもの、食事の形態など希望や状態に合わせており、行事や誕生会などは特に食事は楽しんでもらっている。台拭き、お膳拭き、かたづけなどはスタッフと一緒に楽しそうにやっている。やれる人、好きな人ができることをやっていくことを続ける。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒、喫煙者はないがおやつについては希望者は好みのものを楽しまれている。のどに詰まらせやすい食べ物や、寝たまま飲食することのないように注意している。	○ 家族が面会時におやつを本人に持たせて、本人が一気に食べてしまうと、三食の食欲が失せるほどの食べすぎが時々見受けられる。家族ともしっかり話し合いを進め、スタッフを介して共同スペースでおすそ分けして食べてもらえるように理解してもらいたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の便、尿意の訴えと、スタッフからの声かけによってトイレに誘導している。	○	尿取りパット、リハビリパンツなど使用している利用者があり、少しでも減らしていこうとトイレ誘導の回数を増やすなどの努力をしている。安易におむつを使うことのないようにしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日湧かしている。その中で心身の状態のすぐれない人や拒否をする人など理由あって入浴しないこともある。風呂は高齢者の最も楽しみの一つであり、スタッフにとっては、全身の視察のできる大切な時間帯である。元気に毎日入浴できることが望みである。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の休息、夜間の安眠のためのそれぞれの居室はとても重要。他人を気にせず自由に出入りできる個室でゆったりと過ごしてもらっている。気持ちよく過ごせるように支援していく。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全く役割を持たない人、洗濯物をしっかり整理できる人などさまざまであり、その人の過去の生活歴とも関係していると思う。無理やり何かをしてもらうのではなく、その人は何が好きか、何ができるか、できることをできる場所で発揮してもらう。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力については、あまり望めないが、自分で持っていたい人はスタッフ複数により内容は確認している。「失くした」時の備えとして誰々はいくら位のお金を管理していることを確認しておく。また外出先では(病院支払いや買い物)事務所管理のお金でその場の支払いを本人にしてもらったりしていく。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にたびたび外出はできていない。ただ気象条件によっては裏に600坪の畑と600坪の芝生を有し毎日でも1日2回でも外出できる。受診時の外出では本人の望む買い物をしたりドライブをして遠回りするなどを試みている。外出嫌いな人もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見など年に数回は入居者全員で出かけている。個人的には、家庭での行事に家族と出掛ける人、月に一回は外泊をする人、一日に2回～3回はドライブに行く人、さまざまな形で外出出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話することで安心してホームの生活を送れる人に対しては大いに支援している。また本人からではなくても遠方に住居のある家族に対しては、ホーム便りや個人的な手紙で近況を報告したり電話で話をしている。個人的に携帯電話を持ち、家族と連絡を取り合っているケースもある。		今後も続けていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームに来園された方々には椅子の準備や湯茶の接待など、少しでも長い時間いてもらえるように工夫している。又近況についてお互いに情報交換している。		同じようにしていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束はしていない。		今後もしない介護を目指す。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関等に鍵をかけることはない。		今後も同様である。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時把握につとめ安全な介護を目指している。さりげなく見守っていけるようにする。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ひも、はさみなどの刃物などの持ち物は個々に応じて保管の状況を確認している。調理用具等については、日常的にはひき出しに保管している。又調理の下ごしらえなどはスタッフと一緒に同じ場所で包丁等を使っている。内服薬、消毒液、洗剤等についてはスタッフが管理する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	病気はもとより早期発見に努め、転倒防止等については各人の心身の状況から注意深く見守り声かけをしている。「ひやり、はっと」からスタッフ全員が学びとること、又職員会議等に於いて、再検証することで事故防止につなげていく。防火対策では「火を出さない」を目標に万が一に備えて年2回消防署と合同訓練をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の緊急時は連絡網に於いて体制は整っている。消防署主催の普通救命の研修を受けており、今後も続けていく。今年度は二名の職員が普通救命の上級課程を修了した。その他の職員も即席の担架作りや搬送も学んでいる。	○	今後も上級課程受講予定者がいる
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人では特に地区消防団にお願いして年1回の避難訓練が主である。(通報、消火の実地訓練、担架搬送の実地も含む)また非常ベルは、北側と南側に外部に向けて鳴動するしくみとなっている。今後も災害時には協力の要請ができると思っている。今年度は二地区消防分団と訓練した。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時、又は来園時に個々に応じた話をしている。できるだけ抑圧のない暮らしを続けてもらいたい。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日1回は全員のバイタルチェックをし月2回は体重測定をして日常的に食事や水分排泄、表情などにより健康度をみており平常より異常があればすぐに対応できている。定期不定期受診時、主治医にも報告、早期治療、早期回復につなげている。体調変化については介護スタッフ、管理者、施設長、家族により情報を共有してしかるべき対応により平時に戻せるように努力している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は看護師と話し合いながら、調整できるところは調整し、その人に合わせて確認しながら、服薬できている。職員も責任を持って服薬の確認ができるように、受診後の薬の処方について飲み方やその内容について学んでいる	○	大変難しい問題なので、職員は利用者が服用している薬の目的や副作用についてもっと知識を深め、服薬支援に努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	常習性便秘で緩下剤服用の服用の入居者もあるが快便につながるように工夫はしている。十分な食事や水分の摂取ができていくか毎日チェックしている。	○	飲食物の工夫や運動だけでは便秘が治りにくいケースもあり、今後の課題である。医師の処方による緩下剤では多すぎることもあるがこのような時には適度の便通に戻す努力をしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施している。歯磨き粉、歯ブラシ、義歯洗浄剤や義歯調整剤などを常時整備しておく。また、自分の歯がある人には歯磨きの後に市販のデンタルリンスを使用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養や水分量はほぼ一定しているが中々水分をとらない人や少食の人などについては、他に考慮して一定量に近づける工夫をしている。年に一回、管理栄養士を講師として、栄養教室を開催する。	○	飲み物の種類を増やすこと。栄養的には主食の他、肉、魚、卵、牛乳、野菜、海草、豆などをバランスよく摂ることを考えて献立をすることは基本であり、畑でできた野菜を効率よく活用する為に偏ることもあり、今後の課題である。(調理する 職員の技量に限界もあると思う)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症については年間を通じて予防していくもの、季節的なものなど考慮してマニュアルで学んだり、その都度スタッフ同士が共有して取組むなど努力している。調理器具 雑巾かけモップなど各々消毒できている。年間の研修計画や外部研修で職員全員が学び実行している		今後も十分に気をつける
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等については塩素系殺菌消毒剤で消毒をし、食材は市販のものは、その日の購入で、その他は自家製野菜を使用、長期に冷蔵庫に保管するようなことはない。		今後も同様と思う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすく出入りできていると思う。これまで通り自由に出入りしていただきたい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとっての不快な音はないように思う。光に関しては高齢者は敏感であり最近天井の豆球から足元灯に取り替えた。入居者にとって不都合な部分は可能な限り居心地のよいように工夫していく。	○	1月から2月にかけては、スプリンクラー設置工事の為に ある程度の騒音や人の出入りで落ち着きのない生活になると思われるが、利用者及び家族にはその旨 了解を得ている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分でもその人によって好きな場所があり思い思いの場所を確保しておられると思う。時々場所の確保において、いさかきもあるがその都度仲介をして納得してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>今後も視力障害や異食行為などのある入居者には造花や壁飾りなども弊害があるので本人の心の動きとも向き合う必要がある。また、他の人の居室にいつでも自由に出入りして、注意すると怒ったり入られた人とトラブルになったり、全て建物内を自己所有と思っていたりする利用者に理解してもらえないもどかしさもある。介護の難しさに悩む。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	<p>スタッフは一人一人の利用者を見極める力ができていない。ついスタッフが利用者について苦情を言いがちである。認知症の人は何もできないのではなく、ゆっくりひとつひとつ話をすることやその人の日常の言動から、わかる力を引きだして混乱しない喜びのある暮らしを支えていきたい。</p>
87	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自家用の畑を600坪程有しており、季節の野菜を豊富に使える。(家族来園時にはおすそ分けできるほど)

地域に住み慣れた経営者は近隣の方々とも親交が深く色々な人が訪ねて下さり何かと協力や支援がもらえていると思